

渡良瀬遊水地の自然環境の保全

渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 白井勝二

1. 渡良瀬遊水地と自然環境

渡良瀬遊水地は、東京から 60 km に位置し、群馬、栃木、茨城、埼玉の 4 県にまたがり、その面積は 3,300ha（山手線の内側の約半分に相当）と広大で豊かな環境を有しています。

ここに流入する、渡良瀬川、思川、巴波川の洪水を一時貯留し、利根川のピーク時に影響を与えない治水の役目と谷中湖に水を貯めておき利根川の水が少なくなったときに、補給する利水の役目をもった施設です。

また、自然豊かで広大な空間は、スポーツ、レクリエーションなど様々な利用がなされて年間 100 万人が利用しています。

渡良瀬遊水地は、河川法で開発行為が規制され、ヨシ焼きなどにより豊かな緑を有し、本州最大のヨシ原(1,500ha)で多くの動植物の生息空間となっており、2012 年 7 月にはラムサール条約湿地に登録されました。



図-1 渡良瀬遊水地位置図

	種 数	絶滅危惧種★
植 物	約1,000種	60
昆 虫	約1,700種	62
野 鳥	259(633)	56
魚 類	45	16
哺乳類	14	—

表-1 渡良瀬遊水地動植物絶滅危惧種数



写-1 ヨシ焼きの状況

2. 渡良瀬遊水地のヨシ焼きと環境保全

渡良瀬遊水地は、明治 40 年まで谷中村があり人々が生活していました。人々は農業の他、多くの池沼や水路で、漁業を始め植物のヨシを利用したヨシズや、スゲを利用した菅笠作りなどが行なわれていて、地域の伝統的な産業となっていました。ヨシズ作りには、真直ぐで良質なヨシが必要であり、この広大なヨシ原はで 3 月中旬～下旬に、ヨシ焼きが行われています。これは、ヨシの病害虫を防ぎ、地表まで日光を当てヨシの成長を促し、太くて背の高いヨシを育成するものです。これに伴い、ヨシ以外の多くの植物も種からの発芽や根などから芽吹くことができ、多様な環境を創出しています。

ヨシ焼き後は、ヨシをはじめ絶滅危惧種のとねハナヤスリ、タチスミレなど多くの植物が芽吹き一面青々とした景観となり、多くの動植物の生息の場になります。

ヨシ焼きは、平成 23 年 3 月の東北地方太平洋沖地震により平成 23、24 年中止とな

り、平成 24 年と同じ場所でヨシ焼き実施した平成 25 年植生調査した結果、種から発芽した植物など多くの植物が確認されました。平成 26 年もほぼ平成 25 年と同様な結果となりヨシ焼き中止による植物生育の影響はなくなったと思われます。このようにヨシ焼きの効果は大きく、良質なヨシの生育を始め多様な環境を維持し良好な景観が維持され、ラムサール条約登録の貴重な湿地条件の保全のためにも必要であることが確認されました。

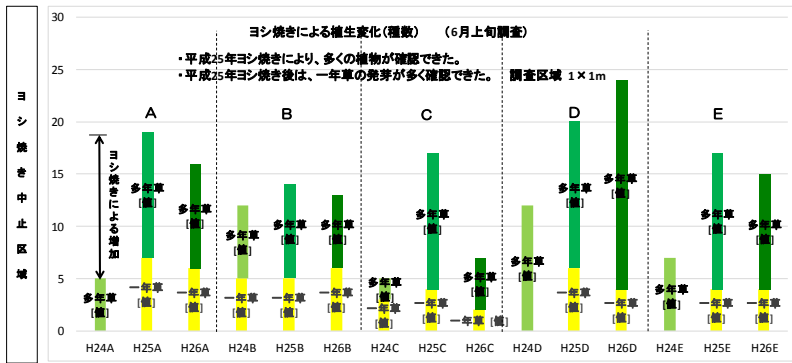


図-2 ヨシ焼きによる植生変化



写-3・4 ヨシの生育比較

3. 乾燥化と外来種等の侵入による環境悪化と対策

渡良瀬遊水地は、明治改修まで赤麻沼、石川沼など大小の沼や水路がありました。その後の渡良瀬川、思川の付け替えによって沼は埋まったことや調節池化工事による地内水路整備などが周辺地下水の低下をもたらした乾燥化が進み、その環境に適応した外来植物の侵入があり、古来より生息していた貴重植物の環境は、悪化しています。

外来種の侵入の著しい第2調節池では、地下水程度まで掘削して湿地の再生事業が行われている。

掘削跡地からは多くの貴重植物の発芽などが確認されています。これらの植物は谷中村の人々が生活していた時代の植物の種子が土の中で眠っていたものであります。

(埋土種子)
今後の遷移を確認していきたいです。



写-5 湿地再生地掘削地



写-6 マルバノサフトウガラシ

【第1環境学習フィールド】

【掘削前調査重要種】

トネハナヤスリ
ノダイオウ
チョウジソウ
エビネ
エキサイゼリ
マイヅルテンナンショウ

ノカラムツ
ハナムグラ
スマアゼスゲ
ホソバオグルマ
タチスミレ

【掘削後生育調査重要種】

コツブヌマハリイ
コキツネノボタン
ミゾコウジュ
タコノアシ
アオヒメタデ
カンエンガヤツリ

ジョウロウスゲ
アズマツメクサ
ミズマツバ
マルバノサフトウガラシ

表-2 掘削前後貴重植物の確認比較

写-7 ジョウロウスゲ

